

『月刊スクリーン印刷』創刊 60 周年記念企画

韓国業界人とのディスカッション

「スクリーン印刷の未来と可能性&日・韓・中の役割と協力」

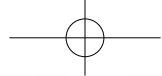


- 主催 (株)印刷紙業社(代表社長)・東風谷彰伸
- 後援 (株)旭日コーポレーション(代表社長)・金聖旭氏(KSGIA 総幹事)
- 日時 2023年12月1日午前11時~15時(昼食挟む)
- 場所 ノホテル・アンバサダー・ホテル・ソウル東大門・19階会議室

■出席者

- ◆東風谷彰伸(月刊スクリーン印刷発行人)
- ◆朴奎鍾氏・SPAK 現会長、(株)DMPS(代表社長)
- ◆李昌燁氏・SPAK 第6、7代及びKSGIA 前会長、(株)CY 商事(会長)
- ◆朴大鉉氏・SPAK 第22代会長及び前会長、現監事、(株)和仁C&C(代表社長)
- ◆鄭泳植氏・KSGIA 顧問、三盛乾燥機(代表社長)
- ◆金聖旭氏・KSGIA 総幹事、(株)旭日コーポレーション(代表社長)
- ◆金洙東氏・三本スクリーン(株)貿易部(管理)部長、金聖旭氏と共に通訳を担当
- ◆安錫賢氏・月刊印刷界(代表社長)
- ◆石者現氏・SPAK 課長(雑誌 SPAK 編集責任者)

20月刊スクリーン印刷



『月刊スクリーン印刷』 創刊 60 周年記念企画

韓国業界人とのディスカッション
「スクリーン印刷の未来と可能性&日・韓・中の役割と協力」



SPAK 会長・朴奎鍾氏



KSGIA 元会長・李昌燁氏

月刊スクリーン印刷 60 周年を記念して今年度は数々の企画を発表して参りますが、海外企画第 1 段として本企画は、SPAK(Screen Printing Association of Korea、朴奎鍾会長)と KSGIA(Korea Screen Printing & Graphic Imaging Association、事務局&総幹事・金聖旭氏)の協力のもと開催に至りました。この場をお借りして KSGIA 前会長・李昌燁氏と KSGIA 事務局兼総幹事の金聖旭氏にはご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。また、年末のお忙しい中、集まっていただきました皆様にも御礼申し上げます。

当初、本ディスカッションは、両協会の会長と私と通訳の 4 人で身近なテーマについて意見交換・ディスカッションをする予定でしたが、話が広がってしまったため深く突込んだ話はできなかったのが残念ではあったが、皆さんの現状について広く意見を聞けたことは収穫であった。

テーマは、「スクリーン印刷の将来と未来の可能性 & 日・中・韓の役割と協力」について、ディスカッションが行われた。

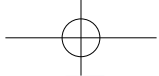


ディスカッションに先立ち、KSGIA 金聖旭総幹事の開会あいさつに続き、SPAK 朴奎鍾会長が以下の通りあいさつされた。

「韓国の印刷団体と日本の印刷団体並びにスクリーン・デジタル印刷業界関係者との交流増進のために、韓国を訪問していただいた月刊スクリーン印刷の東風谷代表を心より歓迎いたします。両国業界関係発展のための意見交換並びにお互いの交流が主たる目的としたディスカッション・懇談会を持つことになったことを本当に意義深く思います。韓国と日本は地理的にも歴史的にも世界のどの国よりも密接な関係を維持してきました。こ

れまで両国には文化、経済、観光など社会のあらゆる分野に結び付いた幅広い交流を通じて相互間の信頼構築と理解増進に多くの成果を成し遂げたと思います。私たちの協会 (SPAK) は月刊スクリーン印刷だけでなく、全日本スクリーン・デジタル印刷協同組合連合会 (内藤会長、JSDPA)、日本スクリーン印刷資機材工業会 (永瀬会長、JASPS) など、日本の印刷関連団体と持続的な交流と協力関係を進めてきており、今後も継続して関係を続けていきたいと思っています。少しずつ縮尺していく協力を通じて両国の印刷産業発展の大きな栄養

月刊スクリーン印刷 2 1



『月刊スクリーン印刷』 創刊 60 周年記念企画

韓国業界人とのディスカッション
「スクリーン印刷の未来と可能性&日・韓・中の役割と協力」



SPAK 前会長・朴大鉉氏



司会進行を務めた KSGIA 総幹事・金聖旭氏

分を作ることができると思っています。今回のディスカッションでは、自由で建設的な印刷産業の未来のための様々な方策について話し合うとともに、連帯と協力を通じた強固な土台を作り出すことで新たな飛躍を迎え、両国の印刷産業をともに築きあげていけることを願っています。」～と。



引き続き、KSGIA 前会長・李昌燁氏が以下のようにあいさつをされた。

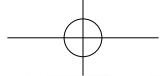
「韓国のスクリーン印刷業界に大きな貢献を果たした美濃商事(株)の小板社長が創世記から韓国業界の発展に寄与され、その後、東風谷氏が韓国業界と40年以上の関係を結んで交流を続けており、韓国スクリーン印刷業界の発展に大きな貢献をしてきました。久しぶりに東風谷氏の声掛けにより韓日の共同関心事について議論できる場を設けていただき嬉しく思います。今日、この場を通じてスクリーン印刷業界についてお互いの経験を踏まえた上で、現状と未来について意見を交わすことには大きな意味があると考えております。今後このようなディスカッションや意見交換など定期的に機会が作られ、スクリーン印刷業界の発展に貢献できることを願っています。最後に本ディスカッションのイベント開催について努力をしてくれた、KSGIA の金聖旭総幹事に感謝をお伝えします。」

2 2月刊スクリーン印刷



引き続き、SPAK 前会長の朴大鉉氏より要旨以下の通り挨拶がなされた。

「コロナパンデミックで、ほぼすべての分野で両国間の交流と協力が停滞したことは、みんなが知っている事実であり、私たちのスクリーン印刷団体間も交流が途絶えて非常に残念でした。コロナ禍が明けた今回、このようなディスカッションが開催されることになり、心から嬉しく思うと共にこれをきっかけに両国の業界人が交流し、互いに信頼を築いていく転換点になることを期待しています。寒い時期に(私が滞在した週は毎日マイナス9℃)訪韓された東風谷氏に感謝します。両国の円滑な交流に橋頭堡の役割を長くされてこられたことも改めて感謝いたします。今回のディスカッションでは、全世界が直面した複合危機を克服するためには、普遍的価値を共有する国家間の連帯と協力をもとに様々な意見を自由に公論化できる場になることを希望します。個人的にはコロナ終結後、スマートフォン、半導体、バッテリー、電気自動車など先端産業の浮上で日本の印刷産業がどのように変わったのか疑問で、東風谷氏にはその辺りを伺いたいと思います。最後に両国印刷産業の未来のための協力を今後もさらに強化されることを願って、あいさつとします。」



『月刊スクリーン印刷』 創刊 60 周年記念企画

韓国業界人とのディスカッション
「スクリーン印刷の未来と可能性&日・韓・中の役割と協力」

「スクリーン印刷の未来と可能性&日・韓・中の役割と協力」

上記をテーマにディスカッションを開催。Q&A 形式ではなく、様々な意見をまとめて箇条書き形式での掲載としました。

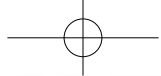


KSGIA 顧問・鄭泳植氏



三本スクリーン(株)・金貿易部長

- ★電気自動車の台頭により、新たなスクリーン印刷関連の需要として、半導体やセンサー、加飾印刷、全個体電池等々開発が活発に行われており、最初の段階で試作など仕事が回ってきやすいスクリーン印刷技術の将来は楽しみでもある。
- ★既存のスクリーン印刷業者はアナログ技術に頼っていたが、産業界の絶え間ない代替需要に応じて、デジタル印刷方式(インキジェット印刷、UV オフセット印刷、インディゴらに代表されるダイレクトデジタル印刷など)へと急速にシフトが進んできた。
- ★これらインキジェットなどデジタル関係の台頭により、スクリーン印刷の市場がかなり奪われ市場は大幅に縮小している。
- ★苦しい状況が続く中、コロナの影響を受け国内需要は減り続け日韓両国ともスクリーン印刷業者の状況はかなり悪い。
- ★日本と同様に、利益が出ている会社とそうでない会社の格差が以前より激しい状況となっている。
- ★デジタルの台頭はかなり大きいものがあるが、例えば携帯電話関連の印刷では、デジタル方式の限界により、視覚的要素よりも機能的要素が重視される機種などは、スクリーン印刷方式が多く利用される結果となっている。
- ★折り畳み式携帯電話 (Foldable Phone) の場合、UTG(Ultra Thin Glass) に厚さ 1 mm 程度のベゼル (Bezel) 印刷を施し、印刷面の寸法精度と鮮明さを確保するために、レーザーを用いた LDI(Laser Direct Imaging) 技術を適用する段階に至っている。



『月刊スクリーン印刷』 創刊 60 周年記念企画

韓国業界人とのディスカッション
「スクリーン印刷の未来と可能性&日・韓・中の役割と協力」



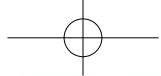
月刊印刷界・安錫賢氏(代表社長)



SPAK 課長・石者現氏 (SPAK 協会誌編集責任者)

- ★スクリーン印刷も既存の技術をより追及することによって、最先端の高価なデジタル装置で印刷したもので画像実現の限界が露呈し、化学的・物理的信頼性が確保できない場合は、スクリーン印刷技術が代替として再浮上しているという分野もみられる。
- ★従来のスクリーン印刷技術から一歩二歩進んだ、寸法安定性を確保できる精密な製版作業と、ナノ粒子インキ、超精密スクリーン印刷機でデジタル印刷機・デジタル方式を超えることは可能である。
- ★スクリーン印刷業者もデジタル方式を毛嫌いするだけでなく、仲間意識を持ちデジタル方式を積極的に応用した印刷技術と機械設備も開発していく必要がある。
- ★スクリーン印刷インキの耐候性、耐光性、機能性などの特性や利点を活かす能力を養う必要がある。
- ★電気自動車の本格生産により車両に搭載される統合ナビゲーションシステムとインストルメントパネルは、スクリーン印刷業界にとって大きなニュースになっている。局面ガラスと PC 印刷は、スクリーン印刷技術の利点をほかの印刷技術と区別ができる。
- ★日本から盛んに用いられてきた古美術品の復元作業に使用されるスクリーン印刷技術はインキの質感や隠蔽力と金、銀箔印刷の効果は、デジタル印刷との相違点をはっきりとみることができの良いモデルである。
- ★日本の基礎科学分野において蓄積される技術をベースとした材料分野開発と、韓国の印刷適応技術力、そしてこれを適用することができる世界的なエレクトロニクス、電機、自動車メーカーからの要求は、新技術の適用において非常に有利な立場を占める。
- ★中国の巨大な資本力は、大量生産の中心であり印刷産業発展の原動力となる。
- ★日・中・韓三カ国の役割分担と協力は、将来のスクリーン印刷業界への希望といえる。
- ★スクリーン印刷技術は、様々な印刷技術の融合と応用により、スクリーン印刷産業は発展し続けることが期待される。

2 4 月刊スクリーン印刷



『月刊スクリーン印刷』 創刊 60 周年記念企画

韓国業界人とのディスカッション
「スクリーン印刷の未来と可能性&日・韓・中の役割と協力」

